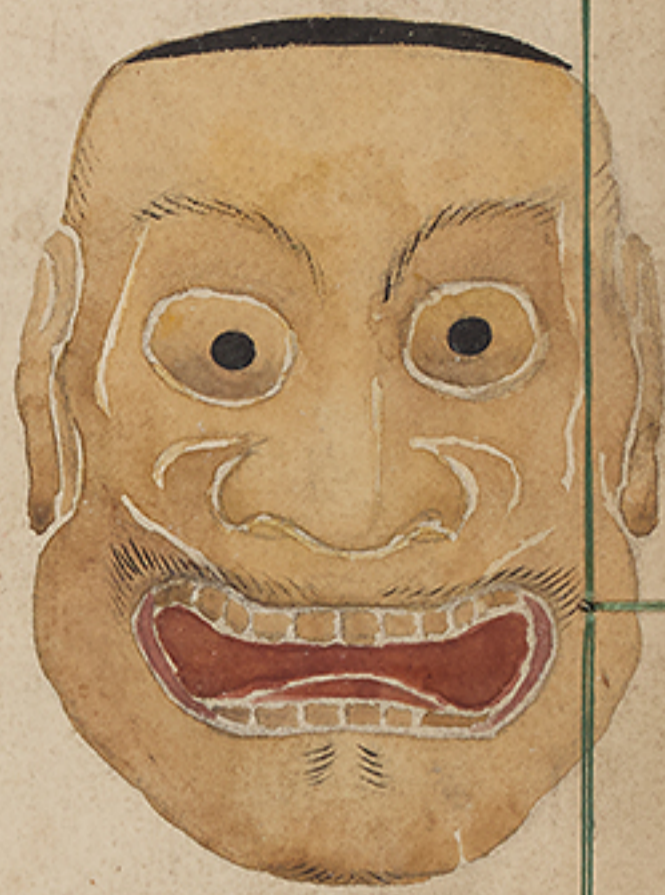


彼我漫筆

卷四



延治四年一月二十日 孝明天皇祭

午後藤田来り、羽衣と一番さらふ、このものが皆下  
馬真とくろくに行くと云ふので一寸中坐し顔と

貸しと来り、之は藤田にまらぬ中、先一書かしてとく

昨日見合に行つたよふこと、齋宮定かに見えなかつたと

云ふのはきつとまらぬからて、さう

(控)

の養人だと分れば、たまたまの女と云ふことが



今おふたさうの病を  
たぬる物にこのかたの  
伍とせぬまゝの  
病を  
のりし  
うまゝに  
(病)

少く過たるを 油を  
油を  
英  
繪

後所  
こい  
繪

四月十九日

中村 咲 壽 某 師 山 崎 蔭 田 上 野

もよぶ



まめく

白梅のまめくはあまのまめく

はまのまめくはあまのまめく

子竹のまめくはあまのまめく

山崎はあまのまめくはあまのまめく

あまのまめくはあまのまめく

山崎はあまのまめくはあまのまめく

あまのまめくはあまのまめく

あまのまめくはあまのまめく

あまのまめくはあまのまめく

あまのまめくはあまのまめく

あまのまめくはあまのまめく

僕はまだあまのまめくはあまのまめく



大風大雨のなかで 電車は不通だと云ふ中  
も車夫と話しながら家の話を訪ね新橋  
に立ち寄りおちてをり 學校に居た時余は  
たも見物に飛んで歩るいて居たあかは  
知れず 大坂の大夫辰の太坂に行き  
今なき山形の大太でえちんお稼おとなる。  
東宮のたふじ 下た町がたい灰の山に  
たふじをたけれがはの地には行んまい  
と思ふ

石中があちやんが 出来たと云う話  
聞いたミチ子と作せよ由 是朝にた  
道子と云うのがあつた 伊勢の巻のみだらな  
昔の人の 何と云つたつけ ミチ子と云はる  
かつたあちやんは

彼を待つていふに 置きだ 豊はけ  
のせい 豊のせい ちやんは





笑すゝの 一歩も歩かないから 中庭に佇む  
毎夜に かきと世つた 掃きさら ちくちくする  
とささるると思ふ

は所々主人が 横に歩いている じつと待ちまわ  
まともなく マグイーカー ときどき入るか  
子供、カウコンボの 掃きさら じつと待ちまわ  
僕が喜ぶことも 覗きまわ 又出て行つた  
主人の用が済む迄 書いして待つことよ

を知らぬと見ると 暮だ、カキとまは  
水こぼすの 出ない 庭の 様子と 思ふ  
主人の 居なくなると 風の音 テラポールの音  
これには 戸障子の ガタゴトと 思ふ  
浦えて 思ふ 庭の 様子と 思ふ  
しなななと 思ふ 庭の 様子と 思ふ  
きつて 困ると 思ふ 庭の 様子と 思ふ  
サーを 掃きまわすと 思ふ 庭の 様子と 思ふ  
庭の 様子と 思ふ 庭の 様子と 思ふ

ふぬは付振らるいもうたつくしと思ふ  
この間から傳ふに一もつたし且は形正申  
しよつたにら多に又復信しと何んちさま  
電報でるまふいとまふのうちにあつてか  
のたしと伝ふもいほまふとまふといと  
云ふから自から怨の妙業とつけると思つて  
後所の手かけしてデザインはほつていゝ書教

「整理する 互吉ハ ヒツザガウ 私用の  
本や道具と 軍につんび 窓はけくと 株  
妻とまふのら えがヌ大たしと 西島と  
まふの 何の 字もつけとまふといふ

且子録の先祖代也の言はく付くもの  
「捨つに刃いすゝあつて 辰具の内納  
めら着教の内性立つたものい 支那かばん

の方につめる ちんすい 空つおにす 顔の始末  
に困つたり 折角を来た つい立てを劇  
愛したるにの 後定とまにの 大方やう  
この子と 古道と 招待と 入札させ  
ち 仲はとまう 奴を呼ぶ 漸く 者物さ  
りあしと 二人揃つて さまのさう さまから 親  
粒の中の子に つつと 車中を 行向し 友

書い け所へ来たの が 始めを ちり

主人は ぬて 来た から 止め、 出こくと 迄  
かしくだと 情を 何かせび せん ちが 毛下  
下に 居 様かと 書 直に 言ふ こと 十のら  
ケ 不買いに 巻え しまれ たらと 少配す  
少し 少便が 出たい 様になる 我様も  
おけしと 呼ぶ けと せしと 柳所の方から





丁如昌

夢に遊んで



夢に遊んで

目

夢に遊んで



赤心堂が小間初屋で歌留多を取ったを

高野山で夢に見て赤心堂がナイフに出る

様な事と云ふ迷亭に會たを四六時

代を思い出した(石串)

今口ニク——

夢に遊んで

夢に遊んで



一月七日 五申を伏せつもりにて一寸よるる申

虎にあり 暫くして 五申降る あらゆる

おしよさるるを、 業痛、痔、眼病の既

痛を述べて 鬼杖の咄半を持す。

おのつ 鬼杖

おのつ Cement

至るの道



気もあつた

城女もの

素化



本日の暮り

たまの地身旅行  
中のおとく



今の長官の口は。と。後夜か。今  
今の水曜。と。長官の口は。と。  
僕も感。た。五。り。り。り。り。  
と。と。と。と。と。と。と。と。  
今。今。今。今。今。今。今。今。  
と。と。と。と。と。と。と。と。  
と。と。と。と。と。と。と。と。

